

2005年6月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2005年5月度 高島屋営業報告

2004年6月にレストラン街の運営を東神開発㈱に移管した立川店の前年数値を調整し、岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋・高崎高島屋の分社4店を含めた18店計の売上高を前年対比の実質数値として表記しています。

【総計】(前年対比、単位：%)

本年	実質
3.7	3.3

5月度の高島屋総計の実質前年対比は 3.3%であった。この結果、3-5月の第1四半期実質売上は 1.2%となり、昨年度に比べマケス幅は縮小し、回復が見られる。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

本年	実質
3.2	2.9

GW期間中の家族向けイベントや母の日関連、UVケア関連、初夏物商材等の販売促進策を積極的に展開し売上拡大を図ったが、中旬における売上の鈍化や前年に比べて土曜日が1日少ないこともあり、百貨店事業では実質前年対比は 2.9%となった。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	3.3	5.5	3.4	+3.3	8.6	2.1
入店客数	5.4	6.4	2.4	+0.3	25.0	6.2

大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	6.3	+0.8	3.2	+1.6	7.1	3.6	5.8	+2.7
入店客数	21.2	1.3	7.6	+0.1	+3.9	4.9	3.3	4.7

横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

立川店の売上高:実質 3.9%

横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区合計	
本年	実質
4.1	3.7

関東地区合計	
本年	実質
2.6	2.3

地区別では東高、西低の売上傾向が見られ、関西地区では岡山店、関東地区では横浜店、玉川店、高崎店が前年を上回った。関西地区では、大阪店が食料品や香港デザートレストラン「糖朝」のオープンした食堂等で前年をクリア。京都店は競合の影響による特選衣料雑貨が低迷しているが、前月に比べ特選の減少率は縮小。岐阜店はリニューアル工事のため入店客数が減少したが、売上はほぼ計画値であった。関東地区では、東京店が前年のリニューアルオープンや好評を博した皇室関係の文化催事等の反動により売上・入店客数ともに前年を下回る結果となったが、3-5月累計売上は前年を3.0%上回った。横浜店は競合店の閉店セールの影響も薄れ4ヶ月ぶりに前年実績を超えた。新宿店はグルメ催事が好評だった食料品が好調な一方、衣料品が前年実績に及ばなかった。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業
売上高	16.2	+3.6
広域計	10.3	

法人事業は大型物件の売上計上月のずれで昨年11月以来の前年割れとなったが、3-5月累計売上は+7.6%と好調。通販事業はリビング用品、婦人雑貨、食料品等が好調で4ヶ月連続で前年実績を上回った。中でも、リビング用品は3-5月累計売上で20%以上伸長。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)](前年対比、単位：%)

	本年	実質
紳士服・洋品	3.7	4.0
婦人服・洋品	6.4	6.1
子供服・洋品	8.0	7.6
その他衣料品	4.5	4.7
衣料品計	5.8	5.7

	本年	実質
身のまわり品	3.6	3.1
家具	+0.5	0.6
家電	1.4	2.9
その他家庭用品	+3.1	+3.0
家庭用品計	+2.2	+1.8

	本年	実質
食料品	3.2	3.0
食堂・喫茶	13.2	8.2
雑貨	±0.0	+0.6
サービス	3.3	1.5
その他	11.2	10.0
合計	3.7	3.3

当社分類による百貨店事業の商品別概況(実質)

紳士服(前年対比 1.0%)は軽量感のあるカジュアルなジャケットやサマースーツ等が好評で、横浜店・玉川店等は前年を上回った。婦人服(同 4.8%)は薄手のジャケットやブラウス等の羽織モノやニットが好調。サファリ系のジャケット等が人気でヤング・キャリアゾーンは健闘、ミスゾーンでは母の日関連商材が順調だった。婦人雑貨(同+1.8%)は、オープンパンプスやサンダル等の季節商品、美白やUVケア関連の化粧品、帽子、日傘等が好評で本年1月以来4ヶ月ぶりに、また宝飾品(同+3.5%)は3ヶ月連続で前年をクリアした。